

ほいくえん かんせん しっかん どうえん めやす
 保育園で感染しやすい疾患と登園の目安

しっかんめい 疾患名	せんかくまかん 潜伏期間	かんせんけいろ 感染経路	おも しょうじょう 主な症状	とうえん のめやす 登園の目安
ましん (はしか)	8~12日	ひまつかんせん せつしよくかんせん ふうきかんせん 飛沫感染、接触感染、空気感染	しよき こうねつ せき はなみず けつまくじゆうけつ め や に 初期は高熱、咳、鼻水、結膜充血、目やに。 はつねつ いちじきかこうけいこう しめ ふただ じょうしやう 発熱は一時期下降傾向を示すが、再び上昇する。(この頃に口の なか しろ こと かお けいぶ ほっしん てる 中に白いぶつぶつ) その後、顔や頸部に発疹が出る。	げねつ あと か けいか 解熱した後3日を経過していること
インフルエンザ	1~4日	ひまつかんせん せつしよくかんせん 飛沫感染、(接触感染)	とつぜん こうねつ よっかつづ けんたいかん きんにくつう かんせつつう はなしやうしやう 突然の高熱が3~4日続く、倦怠感、筋肉痛、関節痛、鼻症状、 いんとつうつ せき 咽頭痛・咳	はっしやうご か けいか げねつ あと か 発症後5日を経過し、かつ解熱した後3日を けいか げねつび にちめ 経過するまで(解熱日は0日目とする)
新型コロナウイルス感染症	やくいつか 約5日 ちゆうおうち 中央値は やくみつか 約3日	ひまつかんせん せつしよくかんせん 飛沫感染、(接触感染)	むしやうしやう けいか ゆうしやうしやうしや かつねつ こきゆうき 無症状のまま経過することもあるが、有症状者では発熱、呼吸器 しやうじやう すつう けんたいかん しやうかきしやうしやう びじゆう みかくいじやう きゆうかくいじやう 症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚異常、嗅覚異常 しやうじやう み などの症状が見られる	はっしやう あといつか けいか しやうじやう 発症した後5日を経過し、かつ症状が けいかい 軽快した あと にち けいか 後1日を経過すること
ふうしん 風疹	16~18日	ひまつかんせん せつしよくかんせん 飛沫感染、(接触感染)	ほっしん かお けいぶ しゆうげん ぜんしん かくだい 発疹が顔や頸部に出現し全身へと拡大する はつねつ せつしゆうちやう ともな おお 発熱やリンパ節腫脹を伴うことが多い。 おかん けんたいかん がんきゆうけつまくじゆうけつ ともな 悪寒、倦怠感、眼球結膜充血を伴うことがある	ほっしん しやうしつ 発疹が消失していること
すいとう みず (水ぼうそう)	14~16日	ひまつかんせん ふうきかんせん 飛沫感染、空気感染	ほっしん かお とうぶ しゆうげん ぜんしん かくだい 発疹が顔や頸部に出現し全身へと拡大する はんてんじやう あか きゆうしん すいほう か ひ ほっしん 斑点状の赤い丘疹→水疱→痂皮(かさぶた) それぞれの発疹が こんざい 混在する	ほっしん すべての発疹が、「かさぶた」になってから
りゅうこうせいじかせんえん 流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	16~18日	だえき かい ひまつかんせん せつしよくかんせん 唾液を介した飛沫感染、接触感染	はつねつ だえきせん じかせん ぜつかせん がつかせん しゆうちやう とうつう 発熱、唾液腺(耳下腺、舌下腺、顎下腺)の腫脹・疼痛	じかせん がつかせん ぜつかせん は ほっしやう 耳下腺・顎下腺・舌下腺の腫れが発症して か けいか ぜんしんじやうたい りやうこう から5日を経過し、かつ全身状態が良好に なるまで
けっかく 結核	3か月~数10年 癒後2年以上 特に6ヶ月以内が多い	かうきかんせん 空気感染	まんせいてき はつねつ ひねつ せき つか しよくふしん かおいろ わる 慢性的な発熱(微熱)、咳、疲れやすさ、食欲不振、顔色の悪さ	いし かんせん みと 医師により感染のおそれがないと認められて いること
いんどうけつまくねつ 咽頭結膜熱 (プール熱)	2~14日	ひまつかんせん せつしよくかんせん 飛沫感染、接触感染	こうねつ へんとうせんえん けつまくえん 高熱、扁桃腺炎、結膜炎	はつねつ じゆうけつとう おも しやうじやう しやうしつ 発熱、充血等の主な症状が消失したあ ふつか けいか こと と2日を経過している事
りゅうこうせいかくけつまくえん 流行性角結膜炎 (はやり目)	7~10日	ひまつかんせん せつしよくかんせん 飛沫感染、接触感染	め じゆうけつ め め まく は 目の充血、目やに。目に膜が張ることもある	けつまくえん しやうじやう しやうしつ 結膜炎の症状が消失していること
ひやくにちせき 百日咳	7~10日	ひまつかんせん せつしよくかんせん 飛沫感染、接触感染	とくゆう せき こ あと ふえ ふ おと 特有の咳(コンコンとせき込んだ後、ヒューと笛を吹くような音をた いき す れんぞくせい ほっさせい せき ちやうき つづ てて息を吸う) 連続性・発作性の咳が長期に続く	とくゆう せき しやうしつ また いつかかん 特有な咳が消失していること又は5日間の てきせい こうきんやく ちりやう しゆうりやう 適正な抗菌薬による治療が終了している こと

<p>ちょうかんしゅつけつせいだいちようきん 腸管出血性大腸菌感 染症</p>	<p>じかん にち 10時間～16日</p>	<p>きん ふちやく いんしょくぶつ けいこう 菌が付着した飲食物からの経口 かんせん せつしよくかんせん 感染、接触感染</p>	<p>すいようげりべん ふくつう けつべん 水様下痢便、腹痛、血便</p>	<p>いし かんせん おそれがないと認められ さいみまん こ 2かいじょう ていること5歳未満の子どもでは2回以上 れんぞく べん きん けんしゅつ 連続で便からの菌が検出されなくなる</p>
<p>きゅうせいしゅつけつせいけつまくえん 急性出血性結膜炎</p>	<p>へいきん じかんまた 平均24時間又は にち 2～3日</p>	<p>ひまつかんせん せつしよくかんせん 飛沫感染、接触感染</p>	<p>つよ め いた め けつまく はくがん ぶぶん じゅうけつ けつまくしだしゅつけつ め 強い目の痛み、目の結膜（白眼の部分）の充血、結膜下出血、目 かまく こんだく やに、角膜の混濁</p>	<p>いし かんせん おそれがないと認められるこ と</p>
<p>しんしゅうせいすいまくえんきんかんせんしゅう 侵襲性髄膜炎菌感染症 (髄膜炎菌性髄膜炎)</p>	<p>よっかいない 4日以内</p>	<p>ひまつかんせん せつしよくかんせん 飛沫感染、接触感染</p>	<p>はつねつ ずつう おうと 発熱、頭痛、嘔吐</p>	<p>いし かんせん おそれがないと認められて いること</p>
<p>ようれんきんかんせんしゅう 溶連菌感染症</p>	<p>にち 2～5日</p>	<p>ひまつかんせん せつしよくかんせん 飛沫感染、接触感染 しょくひん かい けいこうかんせん 食品を介しての経口感染</p>	<p>へんとうえん だんせんせいりゅうがしん ちゅうじえん はいえん かのうせいかんせつえん 扁桃炎、伝染性膿痂疹（とびひ）、中耳炎、肺炎、化膿性関節炎、 こつすいえん すいまくえん 骨髓炎、髄膜炎など</p>	<p>こうきんやく ないふくこ じかん けいか 抗菌薬の内服後24～48時間が経過している こと</p>
<p>はいえん マイコプラズマ肺炎</p>	<p>しゅう 2～3週</p>	<p>ひまつかんせん 飛沫感染</p>	<p>せき はいえん ひ お せき はつねつ ずつう しょうじょう 咳。肺炎を引き起こす。咳、発熱、頭痛などのかぜ症 状がゆっく しんこう り進行する。</p>	<p>はつねつ ばげ せき おさ 発熱や激しい咳が治まっていること</p>
<p>てあしくちびょう 手足口病</p>	<p>にち 3～6日</p>	<p>ひまつかんせん せつしよくかんせん けいこうかんせん 飛沫感染、接触感染、経口感染</p>	<p>こうくうねんまく てあし まったん すいほうせいほしん しょう はつねつ 口腔粘膜と手足の末端に水疱性発疹が生じる。また発熱とのどの いた とこな すいほう みず こうくうない だえき ふ てあし 痛みを伴う水疱（水ぶくれ）が口腔内にでき、唾液が増え、手足の まったん すいほう しょう 末端、おしりなどに水疱が生じる</p>	<p>はつねつ こうくうない すいほう かいよう えいきょう 発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、 ふだん しょくじ 普段の食事がとれること</p>
<p>だんせんせいこうばん 伝染性紅斑 (りんご病)</p>	<p>にち 4～14日</p>	<p>ひまつかんせん 飛沫感染</p>	<p>はつねつ けんだいかん ずつう きんにくつうなど けいび しょうじょう 発熱、倦怠感、頭痛、筋肉痛等の軽微な症 状。 このうすくきょうぶ くりつせいたんこうしよくはんきゅうしん しゅつげん その後両側頬部に孤立性淡紅色斑丘疹が出現</p>	<p>ぜんしんじょうたい よ 全身状態が良いこと</p>
<p>かんせんせい 感染性胃腸炎 (ノロ、ロタウイルス感染症)</p>	<p>にち 口は1～3日 ノロは じかん 12～48時間</p>	<p>けいこうかんせん ひまつかんせん せつしよくかんせん 経口感染、飛沫感染、接触感染</p>	<p>おうと げり 嘔吐、下痢 はくくしょくべん ロタウイルスはしばしば白色便となる</p>	<p>おうと げり しょうじょう ふだん 嘔吐、下痢などの症 状がおさまり、普段の しょくじ 食事ができるまで</p>
<p>ヘルパンギーナ</p>	<p>にち 3～6日</p>	<p>ひまつかんせん せつしよくかんせん けいこうかんせん 飛沫感染、接触感染、経口感染</p>	<p>こうねつ いた いんどう あか ねんまく み つぎ すいほう みず 高熱、のどの痛み、咽頭に赤い粘膜しんが見られ、次に水疱（水ぶ くれ）となり、潰瘍となる。</p>	<p>はつねつ こうくうない すいほう かいよう えいきょう 発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、 ふだん しょくじ 普段の食事がとれること</p>
<p>かんせんしゅう RSウイルス感染症</p>	<p>にち 4～6日</p>	<p>ひまつかんせん せつしよくかんせん 飛沫感染、接触感染</p>	<p>にゅうようじき かんせん ばあい しょうじょう おち せいご げつ まんにゅうじ 乳幼児期に感染した場合は症 状が重く、生後6か月未満乳 児では じゅうしゅう こうきゅうきしょうじょう しょう さいいじょう さいかんせん ばあい かるい 重症な呼吸器症 状を生じる。2歳以上で再感染した場合は軽い せき びじゅうていと 咳や鼻汁程度。</p>	<p>こうきゅうきしょうじょう しょうしつ ぜんしんじょうたい よ 呼吸器症 状が消失し、全身状態が良いこ と</p>
<p>たいじょうほうしん 带状疱疹</p>	<p>あてい 不定</p>	<p>ほもい にんしん しゅう ぶんべん にちまえ 母体が妊娠20週から分娩21日前 すいとう りかん はっしょう までに水痘を罹患すると発症するこ とがある</p>	<p>けいと いた いわかん ばあい こたすう 軽度の痛みや違和感、場合によってはかゆみがあり、その後多数の すいほう みず あつ こうはん 水疱（水ぶくれ）が集まり紅斑となる。</p>	<p>ほっしん かひ か すべての発疹が痂皮（かさぶた）化しているこ と</p>
<p>とつぱつせいはっしん 突発性発疹</p>	<p>にち 9～10日</p>	<p>おお こ おとな だえき じょうじ 多くの子ども、大人の唾液から常時 はいしゅつ ほごしゃ きょうだいしまい 排出されており保護者や兄弟姉妹 だえきなど かんせん かんが などの唾液等から感染すると考 えら れている</p>	<p>みっかていと こうねつ あと げねつ こうはん しゅつげん すうじつ き 3日程度の高熱の後、解熱するとともに紅斑が出現し、数日で消え てなくなる。</p>	<p>げねつ きげん よ ぜんしんじょうたい よ 解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと</p>

適切な対応が求められる感染症

疾患名	潜伏期間	感染経路	症状、特徴	留意すること
アタマジラミ症	10～30日 卵は7日で 孵化	頭髪に直接接触、また体や頭を寄せ合うことで感染する。 また寝具やタオル、用具や施設の共用で感染することがある	卵は頭髪の近くにあり白く見える。フケのようにみえるが、卵の場合はつまんでも容易に動かない。 雌雄の成虫及び幼虫が頭皮から吸血し、3～4週間後にかゆみがでる。	感染が確認された場合は、子どもの頭と頭を接しないようにする。 毎日シャンプーを行い、目の細かいクシで丁寧にシラミや卵を取り除く。 感染したものと同士で互いに感染させることを恐れがあるため、周囲の感染者一斉に治療することが感染防止対策になる
疥癬	約1か月	ヒトからヒトに感染する リネン類や布団の共用で感染することもある。また直接的な接触が比較的長時間あった場合にも感染することもある	かゆみの強い発疹（丘疹、水疱（水ぶくれ）、膿疱、結節（しこり）等）ができる。 手足などには線状の隆起した皮疹（疥癬トンネル）もみられる。体などには丘疹ができる。 かゆみは夜間に強くなる。	手に比較的多くのヒゼンダニ（病原体）があり、手を介して感染することもあるため、日常的な手洗いの励行などが重要である。また下着などは毎日交換する。 強いかゆみのある発疹がでたら皮膚科を受診する。治療を開始していれば、プールに入ってもかまわない
伝染性軟属腫	2～7週	皮膚と皮膚の直接接触による接触感染	1～5 mm（稀に1 cm程度）の常色～白～淡紅色の丘疹、小結節（しこり）である。多くの場合では、数個～数十個が集まっている。 軽度のかゆみがある。個々の物は数ヶ月から半年にかけて自然経過で治癒することもある	集団生活、水遊び、浴場等で皮膚と皮膚が接触することにより、周囲の子どもに感染する可能性がある。このため、伝染性軟属腫を衣類、包帯、耐水性ばんそうこうなどで覆い、他の子どもへの感染を防ぐ。 プールに入っても構わないが上記のように留意する。
伝染性膿痂疹（とびひ）	2～10日	接触感染。かきむしったりすることで湿疹や、虫刺され部位などの小さな傷を介して感染する	水疱（水ぶくれ）やびらん、痂皮（かさぶた）が鼻周囲、体幹、四肢などの全身にみられる。	爪を短くし、皮膚を清潔にすることが大事である。手を介して感染することもあるため、日常的な手洗いが重要である。 病変部を外用薬で処置し、浸出液が染み出ないようにガーゼ等で覆っていれば通園可能。
B型肝炎（HBV）	急性感染では 45～160日 （平均90日）	感染者の血液が他人の皮膚や粘膜にできた傷から体内に入ることで感染。 唾液、涙、汗、尿などにもウイルスが存在するため、感染源になりうる。	ウイルスが肝臓に感染し、炎症を起こす。 0歳児で感染した場合は約9割がキャリア（持続感染者）となる。5歳児でも約1割がキャリア化する。キャリア化しても85～90%は治療を必要としないが、残りの多くは思春期以降に慢性肝炎を発症し、一部は肝硬変や肝がんに進展する可能性がある。	最も効果的な感染拡大防止策はHBワクチンの接種である。 HBワクチンは安全で効果の高いワクチンである。3回の接種でほとんどの人が免疫を獲得することが可能である。現在定期接種として実施されているが、対象でない子どもについてもワクチンの接種を済ませておくことが重要である。